



西尾いきものふれあいの里だより

8月号

2024.8.1 発行

さとやま

8月の里といきもの



今年の7月は、梅雨明け前から晴れた日は35℃近い気温になることもあり、地球温暖化もここまで来たかと思われ知らされました。8月には暑さも本格的となり、体温越えの日も予想されています。田んぼでは稲の穂が出始める時期です。イネは、もともと南方系の植物ですが、日本の気候に合わせて品種改良され、寒さに強いイネ作られてきました。しかし、稲の花が咲くころに気温が高くなりすぎると米が実らなくなる「高温不稔(こうおんふねん)」がおきます。暑い日が続くと米粒の中が白く濁る「白未熟粒(しろみじゅくりゅう)」が増え品質が落ちてしまいます。そこで最近では、高温に強いイネの開発が進められているそうです。



小草池横の道の私有地側などに、モールのような穂が付いた、大きな葉の植物が生えています。これは、イラクサ科カラムシ属に分類される多年草の**ヤブマオ**です。

夏に小さな花が穂状にたくさんつきます。茎の上の方は雌花の穂、下の方は雄花の穂が少しありますが、雄花がない場合もあります。雌花だけで単為生殖し種子ができるそうです。育つとモコモコした状態になります。



雌花

ヤブマオ



種子



ナガバヤブマオ



雌花

万灯山エリアには、よく似た葉が長い近縁の**ナガバヤブマオ**が生えています。花は、ヤブマオより少し遅く咲くようで、穂は細めです。やはり雌花の穂が茎の上の方に付き、雄花の穂が下の方につくそうですが、数は少なかったりなかったりするそうです。

綿や絹が伝来していない古代の日本では、カラムシ属の植物の繊維を利用して布を織っていました。カラムシの別名のマオの中で藪に生えていることから名がついたようです。

8月はこんな生きものも見られます

駐車場北側では、**ノカンゾウ**のオレンジ色をしたユリのような花が咲きます。春には若芽、初夏に花・蕾が食べられ、甘味があって美味しいそうです。蕾を天日干しにし、乾燥させた生薬を「金針菜」（きんしんさい）といい、利尿作用・解熱作用があるようです。

ビオトープ上の池付近では、**アキカラマツ**の花が見られます。里ではここでしか見つかりません。茎を天日で乾燥させてものを煎じて服用すると、腹痛、下痢、食あたり食欲不振などに効果があるとされます。最近では、気温が高いせいか育ちがあまりよくないように見られます。

田んぼエリアに向かう道には、**ナツフジ**とみられる、白っぽい藤の花が見つかることがあります。春に咲くフジと同じマメ科フジ属の在来種です。あまり大きくはならず、夏に淡黄白色の花をつけます。



ノカンゾウ



アキカラマツ



ナツフジ

田んぼのあぜには、アゼナの仲間の青い小さな花が咲いています。アゼナには、在来種のアゼナと外来種のアメリカアゼナがあるようです。葉のふちに鋸歯があるのはアメリカアゼナだということなので、写真は外来種でしょうか、はっきりしません。

田んぼの中をのぞくと、ウキクサに交じって、イチョウウキゴケが見つかることがあります。浮遊性のコケ植物で、水質汚濁や農薬の使用によって個体数が減少し、絶滅が危惧されています。ウキクサは、コケではなくサトイモ科に分類される立派な種子植物です。しかし多くは、出芽によるクローンで仲間を増やし、花が咲くことはほとんどなく、咲いても小さくて見つけることは困難です。



里のあちこちで、クサギの白い花が良く目立ちます。葉をちぎるとビタミン剤のようにおいがするため名が付きましたが、花は付近に芳香を放ちます。

田んぼエリアの石垣ではオトギリソウの花を見ることができます。お昼を過ぎるとつぼんでしまいますので、午前中に探しましょう。万灯山にも生えていますが、環境の変化のためか最近花が咲きません。

田んぼエリアの水たまり付近では、クサネムの花が見られます。この植物は里にたくさんいるキタキチョウの幼虫の食草です。

万灯山へ向かう道や長円寺には、前回ご紹介したヒメヤブランによく似た花をたくさんつけた、長い花穂があるヤブランが生えています。

夏は様々な昆虫が観察できます。ただ、動いていないと気付かずに近づいてしまい、飛び立ってからわかることがよくあります。大型のトンボのオニヤンマは、雄が雌を求めて水辺をパトロールする様子が目立ちますが、木の枝などに垂直にとまって休憩しているのを見つかることもできます。

クロアゲハも林のふちなどで、同じような姿勢でとまっていることがよくあります。オスは木が茂ったところと、日当たりのよい場所の境目をふわふわと飛ぶことが多いです。



今年は命の危険があるほど気温の高い日が多くなりそうですが、朝夕の比較的気温が低いときなどに、熱中症に気を付けて、こないきものを探してみてください。

7月の行事紹介



「梅雨時のキノコを観察しよう」を7月21日(日)に開催しました。

梅雨明けから4日目、暑い日が続きキノコが出ているか心配しながら里山へ探しに出かけました。湿った地面や枯れた木などから色々なキノコを採取することができました。

採取してきたキノコを一か所に集めて、講師がキノコの色、形、匂いなどの同定作業をして、キノコの種名や特性など教えてもらい、楽しいキノコ観察の時間を過ごすことができました。

8月の行事予定

4日(日)	里の水辺の生きもの探そう	30名	AM 9:30~11:30	神本晃
-------	--------------	-----	---------------	-----

内容 ~里山を流れる小川には、色々な生きものがすんでいます。

実際に川の中に入って、タモで捕まえて観察します。

25日(日)	佐久島ってどんなところ？ シーグラスでアクセサリを作ろう	20名	AM 9:30~11:30	三矢由紀子
--------	---------------------------------	-----	---------------	-------

内容 ~西尾市にある離島 佐久島の自然と環境の話聞いて、

島で集めたシーグラスを使って自分だけのアクセサリを作ってみましょう。

9月の行事予定

8日(日)	楽しい絵手紙	20名	AM 9:30~11:30	市川百合子
-------	--------	-----	---------------	-------

内容 ~ 里山で風雨に耐え一生懸命に生きる植物を、皆さんと楽しみながら書きましょう。

へタでもいい、笑顔のある講座を目指して行います。

22日(日)	秋の里山で野鳥を観察しよう	20名	AM 9:30~11:30	高田俊洋
--------	---------------	-----	---------------	------

内容 ~秋の里山で、北から南へ渡ってゆく旅の途中の小鳥を観察します。

夏鳥の小鳥が帰ってゆく姿や、タカの仲間も観察できるかもしれません。

- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下の場合**は開講しません。
- ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ **当日の天候**により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課